



【報告】 各機関の取組事例紹介

令和8年1月22日

第9回熊野川流域治水協議会

目次

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

洪水氾濫対策

北山川における堤防強化【三重県】	2
河道の堆積土砂撤去【奈良県】	3
一級河川における河川改修(輪中堤)【和歌山県】	4
熊野川における河道掘削【紀南河川国道事務所】	5

流域の雨水貯留機能の向上

森林整備・治山事業【三重県】	6
森林整備(北山・十津川地域)【奈良県】	7
治山事業【奈良県】	8
森林整備事業【近畿中国森林管理局 三重森林管理署】	9
森林整備・治山事業【近畿中国森林管理局 奈良森林管理事務所】	10
森林整備、治山事業の実施【近畿中国森林管理局 和歌山森林管理署】	11

流水貯留機能の拡大

猿谷ダムの運用改善の対応状況について【紀の川ダム統合管理事務所】	12
----------------------------------	----

土砂災害対策

不安定土砂の下流への流出を防止 砂防事業(床固工群、斜面对策工など)【紀伊山系砂防事務所】	13
---	----

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

避難体制等の強化

地区タイムラインの活用・策定【紀宝町】	14
防災教育・啓発活動等の推進【津地方气象台】	16
防災気象情報の普及啓発活動【奈良地方气象台】	17
防災教育・啓発活動等の推進【和歌山地方气象台】	18
熊野川中学校における防災授業【紀南河川国道事務所】	19
「局地的豪雨探知システム」の利活用推進とゲリラ豪雨対策 広域アクションプランに基づく対策の推進 【近畿地方環境事務所】	20

浸水被害対策

排水ポンプ車の配備・運用【三重県】	21
WEB会議による危機感の共有【紀南河川国道事務所】	22
報道・中継訓練【紀南河川国道事務所】	23

グリーンインフラの取組

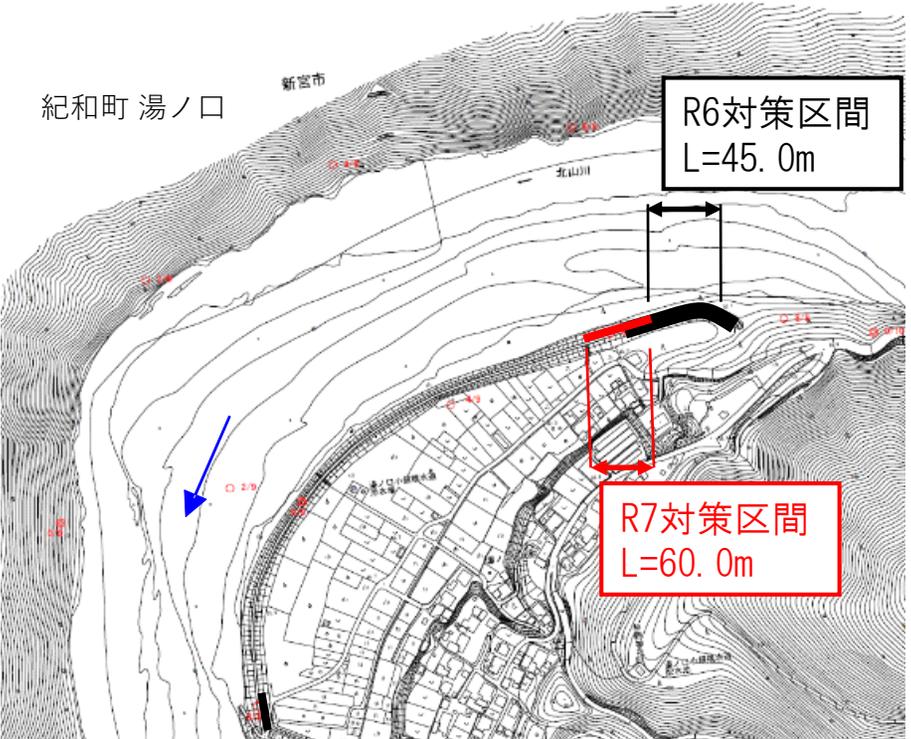
水源林造成事業による森林の整備・保全【国立研究開発法人森林研究整備機構 森林整備センター】	24
---	----

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

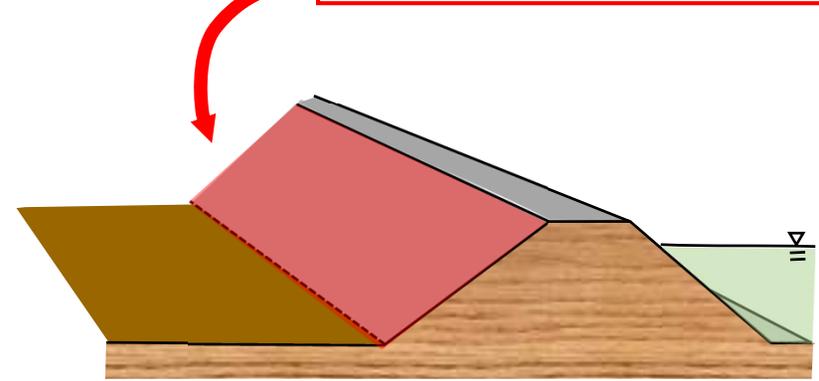
洪水氾濫対策 北山川における堤防強化

○ 堤防が壊れるまでの時間を少しでも引き延ばすことによって、住民の方が避難する時間を確保するための対策として、堤防強化を実施しています。

位置図（北山川）



堤防裏法を張ブロック等で補強



事業実施状況（R6年度）



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

河道の堆積土砂撤去

熊野川流域における河川の堆積土砂撤去を実施

○河川堆積土砂撤去(神納川)



○河川堆積土砂撤去(滝川)



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

洪水氾濫対策 一級河川における河川改修(輪中堤)

○ 熊野川の能城山本地区では、平成16年8月洪水をはじめ、近年浸水被害が度々発生している状況を踏まえ、浸水被害軽減のため、輪中堤の整備を集中的に実施しています。

事業概要

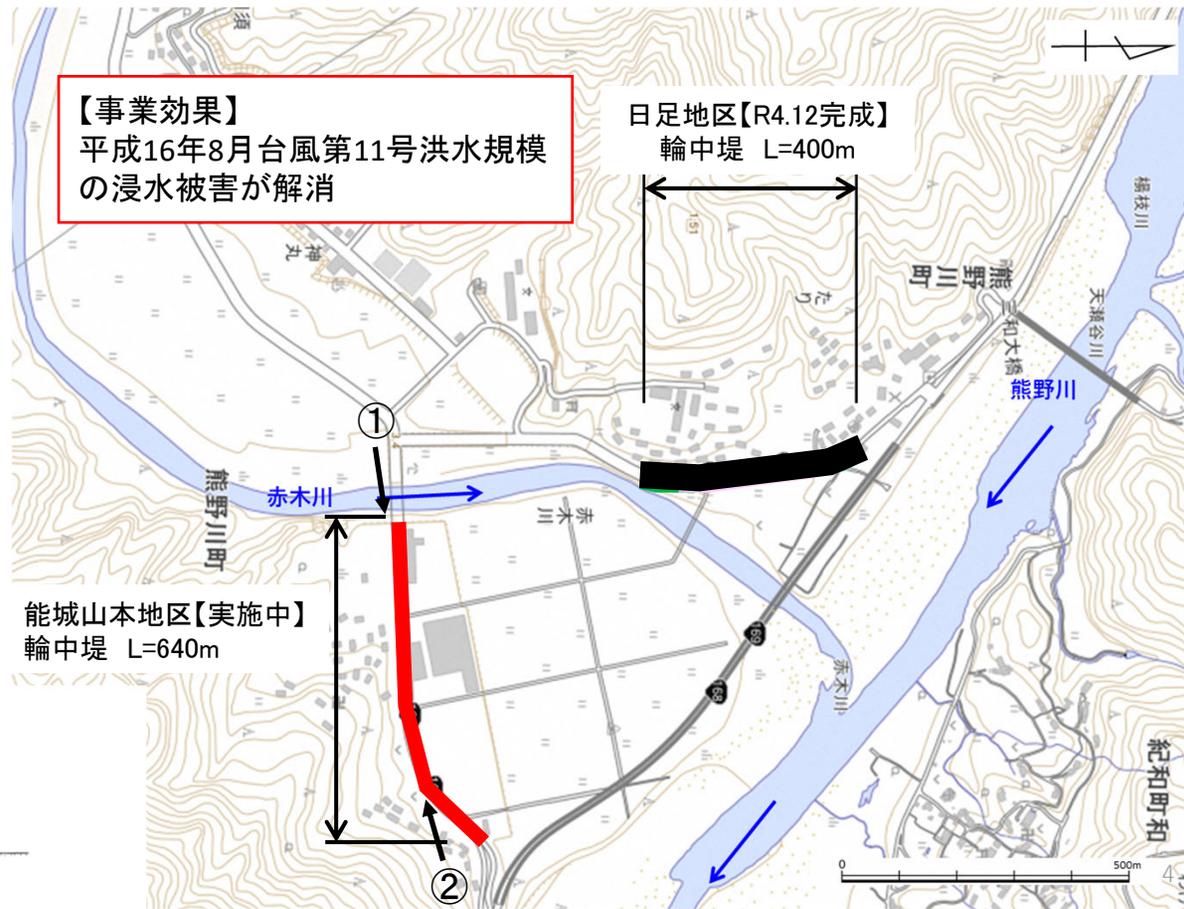
位置図



施工状況

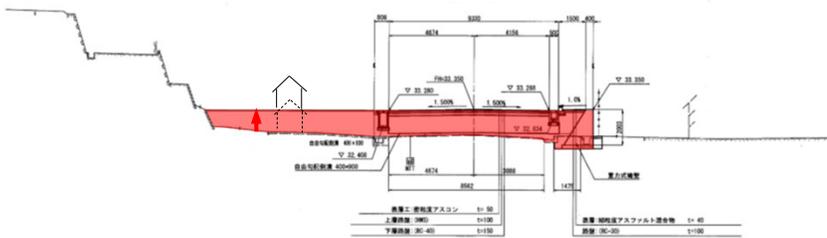


平面図



【事業効果】
平成16年8月台風第11号洪水規模
の浸水被害が解消

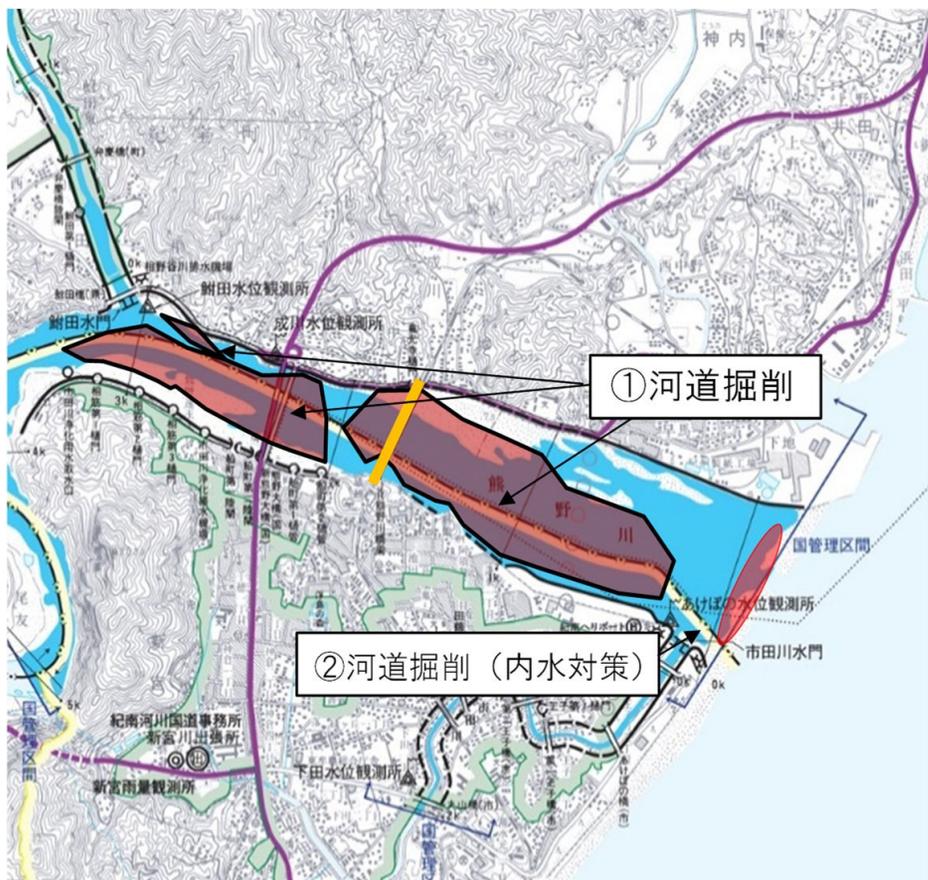
標準断面図(能城山本地区)



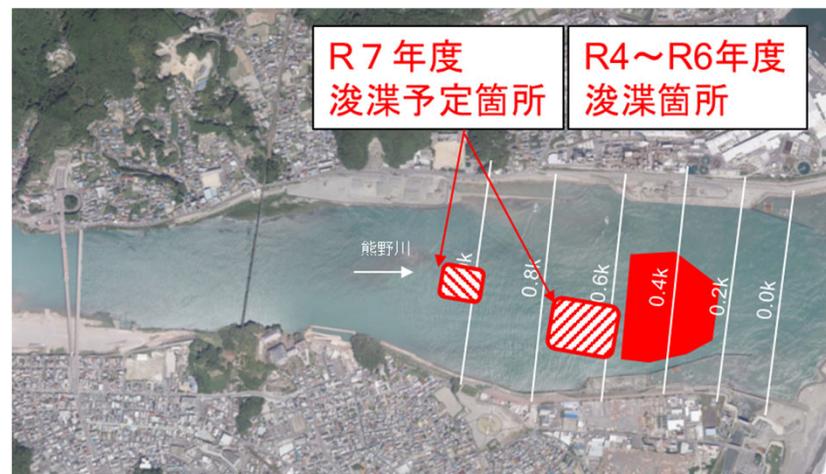
洪水氾濫対策 熊野川における河道掘削

- 令和3年10月に全国に先駆け、気候変動の影響を考慮し、新宮川河川整備基本方針(変更)を策定し、次ぐ令和4年3月に新宮川水系(熊野川)河川整備計画を策定しました。
- 整備計画流量を安全に流下させることを目標とし、更なる治水安全度向上のため、段階的な河道掘削を実施しています。

熊野川河道掘削計画範囲



熊野川河道掘削実施状況



各年度の進捗状況

各施策の実施状況	河川名	距離標	整備計画における目標量(万 m^3)	実施数量・実施の有無(万 m^3)				総実施済量(万 m^3)	進捗率(%)
				R4	R5	R6	R7 予定		
河道掘削	熊野川	0.0k~3.4k	570	14	4	11	11	28	5%

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

流域の雨水貯留機能の向上
森林整備・治山事業

○ 今後の気候変動の激化を見据え、森林の有する土砂流出防止機能や洪水緩和機能の適切な発揮のため、河川上流域における治山対策・森林整備を実施する。

森林整備

- ・手入れ不足等により過密状態となった森林において、森林整備を実施することで樹木の生長や下層植生の繁茂を促し、降雨等に伴う土壌流出を抑制する。
- ・R7年度においては、3箇所で行った森林整備を実施。



森林整備実施箇所(熊野市)

治山事業

- ・治山ダムの整備により、山脚の固定をはかり溪岸の侵食を防止するとともに、上流側の溪床勾配を緩和することにより土砂・流木の流出を抑制し、山地災害を未然に防止する。
- ・R7年度においては、1箇所で行った治山事業を実施。



治山ダム実施箇所(熊野市)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

流域の雨水貯留機能の向上 森林整備（北山・十津川地域）

- 北山・十津川地域森林環境保全整備事業計画地区内において、適切な森林整備が行われず、森林の有する公益的機能が十分に発揮されているとは言い難い人工林が増加している。北山・十津川地域森林環境保全整備事業計画地区の森林における公益的機能を発揮させるため森林整備を行う。

《現状》



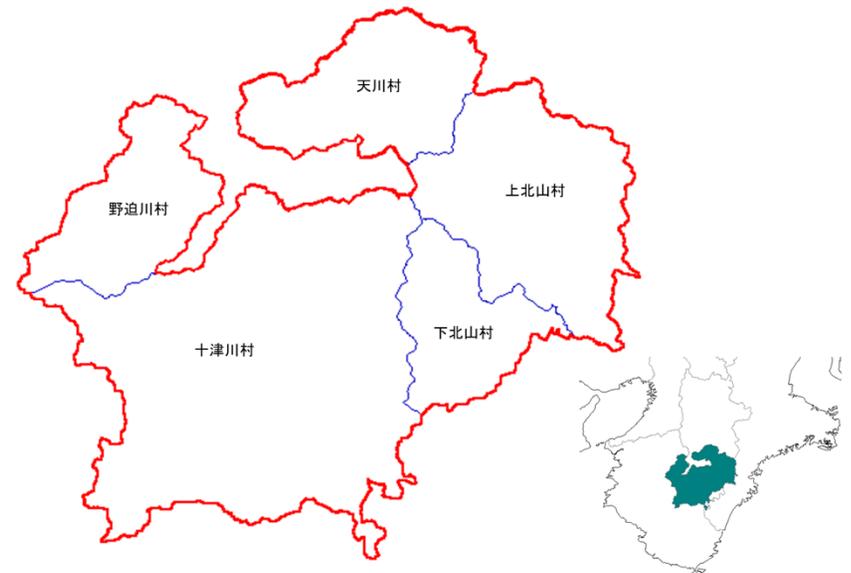
《対策イメージ》



北山・十津川地域

(上北山村・下北山村・天川村・野迫川村・十津川村)

森林環境保全整備事業 北山・十津川地域(奈良県)



【事業効果】

北山・十津川地域森林環境保全整備事業計画地区の森林における公益的機能の発揮

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

流域の雨水貯留機能の向上
治山事業

番号	期間	施策の概要	計画の有無	着手の状況	備考
㊦	H29～R3	復旧治山事業(吉野郡上北山村白川オマタヅリ) 上北山村白川オマタヅリ地区に溪間工、山腹工を整備	有	施工済み	土石流対策、山腹対策
㊦	R1～R8	復旧治山事業(吉野郡天川村川合) 天川村川合地区に溪間工、山腹工を整備	有	施工中	土石流対策、山腹対策
㊦	R3～R6	復旧治山事業(五條市大塔町篠原) 五條市大塔町篠原地区に山腹工を整備	有	施工済み	山腹対策
㊦	R5～R5	復旧治山事業(吉野郡天川村和田西の谷) 吉野郡天川村和田西の谷地区に山腹工を整備	有	施工済み	山腹対策
㊦	R3～R7	復旧治山事業(吉野郡十津川村今西山坂谷) 十津川村今西山坂谷地区に溪間工、山腹工を整備	有	施工済み	土石流対策、山腹対策
㊦	～	復旧治山事業(吉野郡上北山村西原和佐又山) 上北山村西原和佐又山地区に山腹工を整備	無	調査中	山腹対策
㊦	～	復旧治山事業(吉野郡野迫川村北股上垣内) 吉野郡野迫川村北股上垣内地区で溪間工、山腹工を整備	無	調査中	土石流対策、山腹対策
㊦	～	復旧治山事業(吉野郡野迫川村池津川) 吉野郡野迫川村池津川地区で山腹工を整備	無	調査中	山腹対策
㊦	R2～R3	緊急予防治山事業(下北山村上池原ウメノキサコ) 下北山村上池原ウメノキサコ地区に山腹工を整備	有	施工済み	山腹対策
㊦	R3～R3	予防治山事業(五條市大塔町篠) 五條市大塔町篠地区で山腹工を整備	有	施工済み	山腹対策
㊦	R4～R5	予防治山事業(五條市西吉野町茄子原) 五條市西吉野町茄子原地区で山腹工を整備	有	施工済み	山腹対策
㊦	R4～R6	予防治山事業(下北山村上池原タカオ) 下北山村上池原地区で山腹工を整備	有	施工済み	山腹対策
㊦	R7～R8	予防治山事業(下北山村佐田モモハラ谷) 下北山村佐田モモハラ谷地区で溪間工を整備	有	施工中	土石流対策
㊦	R4～R5	予防治山事業(吉野郡十津川村湯之原) 吉野郡十津川村湯之原で山腹工を整備	有	施工済み	山腹対策
㊦	～	予防治山事業(吉野郡十津川村折立) 吉野郡十津川村折立地区で山腹工を整備	無	調査中	山腹対策
㊦	～	機能強化・老朽化対策事業(吉野郡天川村中越) 吉野郡天川村中越地区で溪間工、山腹工を整備	無	調査中	土石流対策、山腹対策
㊦	R5～R5	機能強化・老朽化対策事業(吉野郡十津川村出谷殿井) 吉野郡十津川村出谷殿井地区で山腹工を整備	有	施工済み	山腹対策
㊦	R3～R5	保安林緊急改良事業(吉野郡天川村洞川龍泉寺) 吉野郡天川村洞川龍泉寺地区で山腹工を整備	有	施工済み	山腹対策
㊦	H29～R7	流域保全総合治山事業(吉野郡十津川村杉清小井谷) 吉野郡十津川村杉清小井谷で溪間工、山腹工を整備、森林整備の実施	有	施工済み	土石流対策、山腹対策
㊦	R4～R7	流域保全総合治山事業(吉野郡野迫川村北股) 吉野郡野迫川村北股で山腹工を整備	有	施工済み	山腹対策
㊦	R4～R8	流域保全総合治山事業(吉野郡野迫川村弓手原) 吉野郡野迫川村弓手原で溪間工、山腹工を整備	有	施工中	土石流対策、山腹対策
㊦	～	熊野川流域(五條市、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村)管内の荒廃溪流及び山腹崩壊地の整備、森林整備の推進(熊野川地域森林計画)	無	荒廃地の緊急度と優先度に応じて着手	土石流対策、山腹対策

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

流域の雨水貯留機能の向上 森林整備事業

○ 林野庁所管の国有林(当該流域に約3,200ヘクタール)を多様で健全な森林として未来に引き継いでいくこと等を目指し、植栽、下刈、間伐、林道修繕といった森林の整備を行っています。
水源のかん養、山地災害の防止等のために指定された保安林の機能向上に向けた森林整備や、荒廃地復旧のための治山施設の設置を行っています。

■熊野川流域（新宮川流域）国有林位置図

■森林整備事業



間伐等の森林整備の実施、また森林整備を効率よく実行できるよう、荒廃した林道を修繕することにより、森林の持つ水源かん養機能、土砂災害防止機能、生物多様性保全機能を増進する。



(写真)森林整備
(間伐実施前)



(写真)森林整備
(間伐実施後)



(写真)森林整備
(林道修繕施工前)



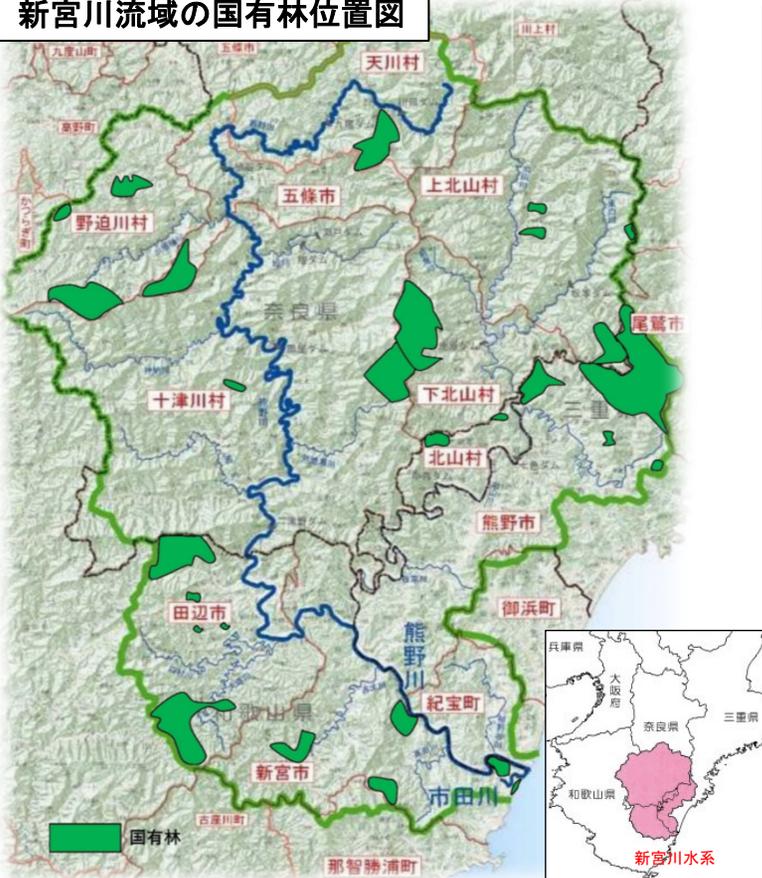
(写真)森林整備
(林道修繕施工後)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

流域の雨水貯留機能の向上 (森林整備・治山事業)

- 地球温暖化の影響に伴い、気候変動がより一層激化することが見込まれている中、森林の有する土砂流出防止や洪水緩和等の機能の維持・増進により、豪雨災害から国民の生命・財産を守るため、気候変動に対応した事業を実施し、流域における災害の発生の防止又は軽減を図る。
- 上流域の森林において、浸透能・保水力を有する森林土壌を保持する対策を強化し、流出遅延効果の役割を果たし、更なる治水対策を推進する。

新宮川流域の国有林位置図



森林整備事業

機能の低下した森林を対象に、保安林整備とセットで筋工・柵工を面的に設置し、土壌の保持と、雨水の浸透促進や地表流化した場合の流速低減を図る。

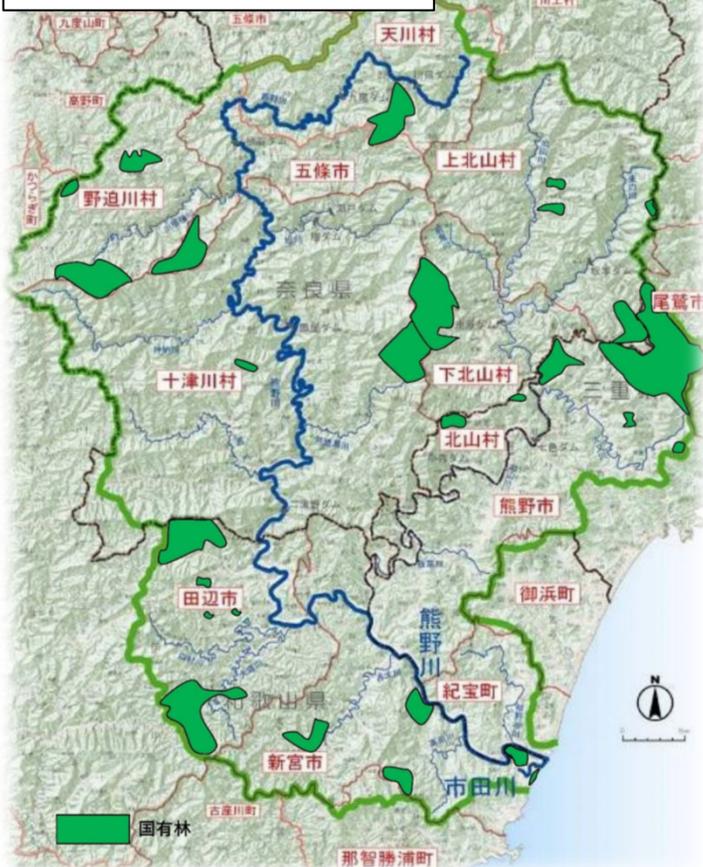


氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

流域の雨水貯留機能の向上 森林整備、治山事業の実施

- 林野庁所管の国有林(当該流域に約19,000ヘクタール)を多様で健全な森林として未来に引き継いでいくこと等を目指し、植栽、下刈、間伐といった森林の整備を行っています。
水源の涵養(かんよう)、山地災害の防止等のために指定された保安林の機能向上に向けた森林整備や、荒廃地復旧のための治山施設の設置(民有林の一部を含む)を行っています。

新宮川流域の国有林位置図



森林整備事業

間伐とは、森林の混み具合に応じて、樹木の一部を伐採し、残った木の成長を促す作業です。間伐を行うと、光が地表に届くようになり、下層植生の発達が促進され、森林の持つ水源涵養機能、土砂災害防止機能、生物多様性保全機能が増進します。

(写真)間伐を実施した森林。



治山事業

大雨等による山崩れ(崩壊地)は、下流で起きる洪水の原因ともなります。崩壊地では、斜面には山腹工事、溪流(谷川等)には溪間工事という土木的な工事を行い、安定した場所には木を植え、山を守る森林に戻していきます。



(写真左)山腹工、(写真右)溪間工の施工地。

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

流水貯留機能の拡大 猿谷ダムの運用改善の対応状況について

○ 猿谷ダムでは、下流の洪水被害の軽減を図るため、あらかじめ空き容量を確保して洪水時の放流量を低減することを目的とした試行運用を実施しています。

試行運用の目的

●目的

平成23年紀伊半島大水害を受け、洪水時の放流量低減のための空き容量を増強
 <平成24年より実施>

●対象期間

9月1日～10月31日

●実施方針

1,000m³/sを超える洪水が予想される場合、関係機関の協力により事前に標高426mを目標に貯水位を10m下げて出水に備える。
 これによりダムの空き容量約900万m³確保。

<関係機関：電源開発(株)、近畿農政局>

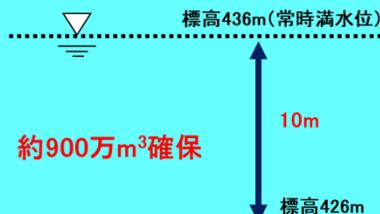
●関係機関との調整

調整会議にて貯水位運用を調整
 (毎年5月開催)

H23年まで

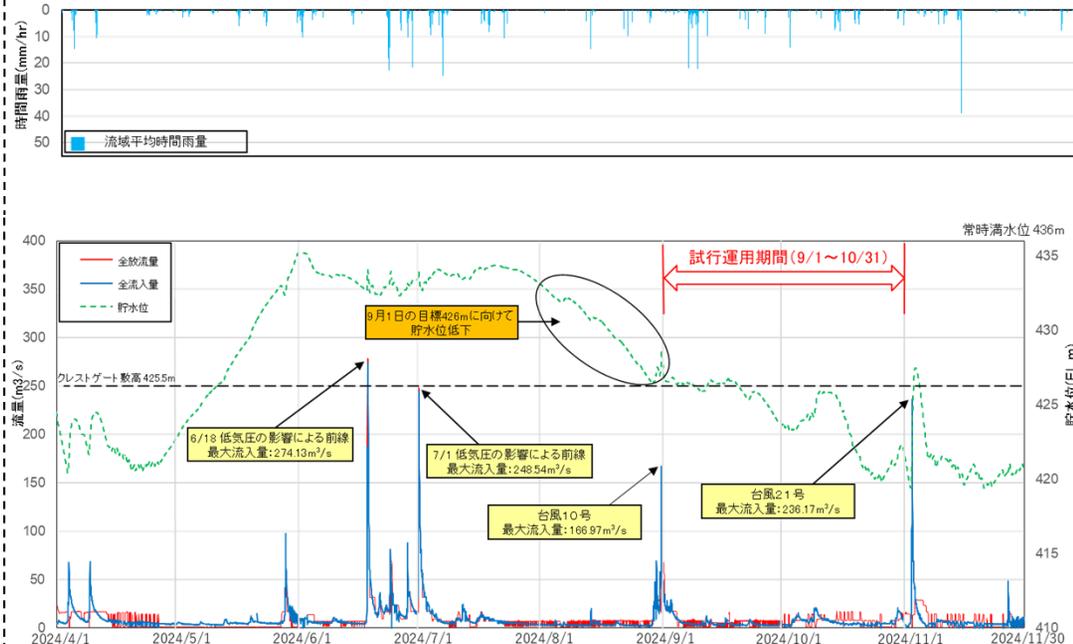


H24年から



令和6年度の出水状況と貯水池運用状況

- 令和6年度の出水では、流入量が1,000m³/sを超える洪水は発生していない。
- 6月18日の低気圧の影響による前線では、総雨量143.6mm、最大流入量は約274.13m³/s、11月の台風21号では総雨量77.8mm、最大流入量は約236.17m³/sであった。



氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

土砂災害対策 不安定土砂の下流への流出を防止 砂防事業(床固工群、斜面对策工など)

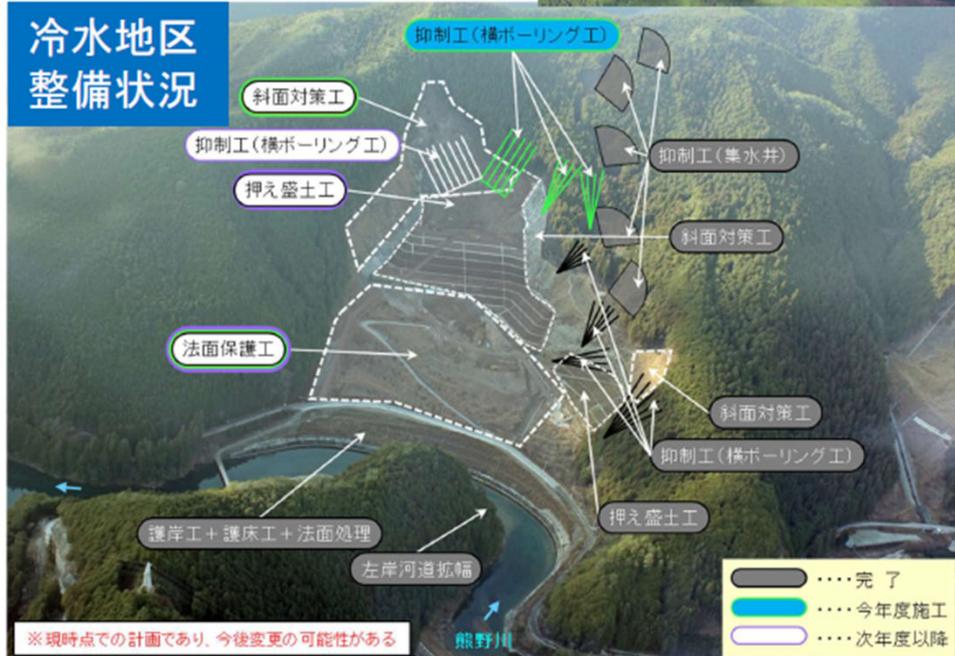
○ 熊野川流域の冷水地区ではH23紀伊半島大水害発生当時、幅230m、高さ180m、長さ290mの崩壊が発生しました。斜面再崩壊による崩壊土砂や、熊野川河道部における顕著な河床上昇等により、上流の坪内地区、下流の九尾地区で甚大な被害が生じるおそれがあります。このため、崩壊斜面の安定化や、洪水流の安全な流下のための護岸整備を実施しています。

取組内容



平成23年台風第12号被災直後

冷水地区 整備状況



事業実施効果



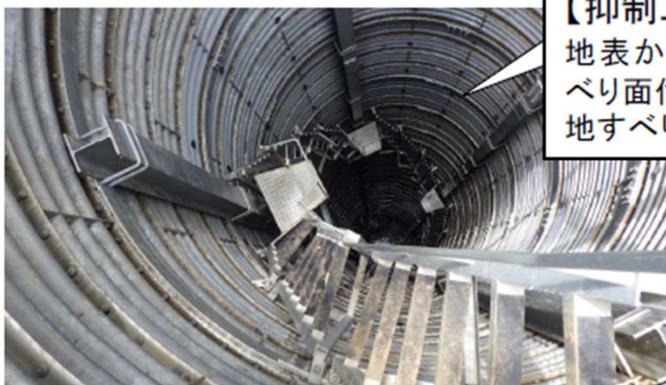
【斜面对策工】

吹付法枠にアンカーを打ち込み斜面を安定化させて崩落を防止

【押え盛土工】

斜面の下部に土を盛り、脚部を安定させることにより地すべりを防止

令和7年9月撮影



【抑制工(集水井)】

地表からでは排除できないすべり面付近の地下水を排除し、地すべりを防止

避難体制等の強化 地区タイムラインの活用・策定

目的

災害時において町・地域との情報共有ができ、的確かつ円滑な避難行動等が行えるとともに、自助・共助・公助による災害対応ができることを目的とする。

策定のポイント

- これまでの災害の経験を活かす。
- 地域の災害リスク等の地域特性を反映する。
- 災害時の活動や行動をお互いに理解する。
- 災害時に、迅速・円滑・的確に対応する。

※ 令和7年10月現在、6地区16自主防災組織が策定済

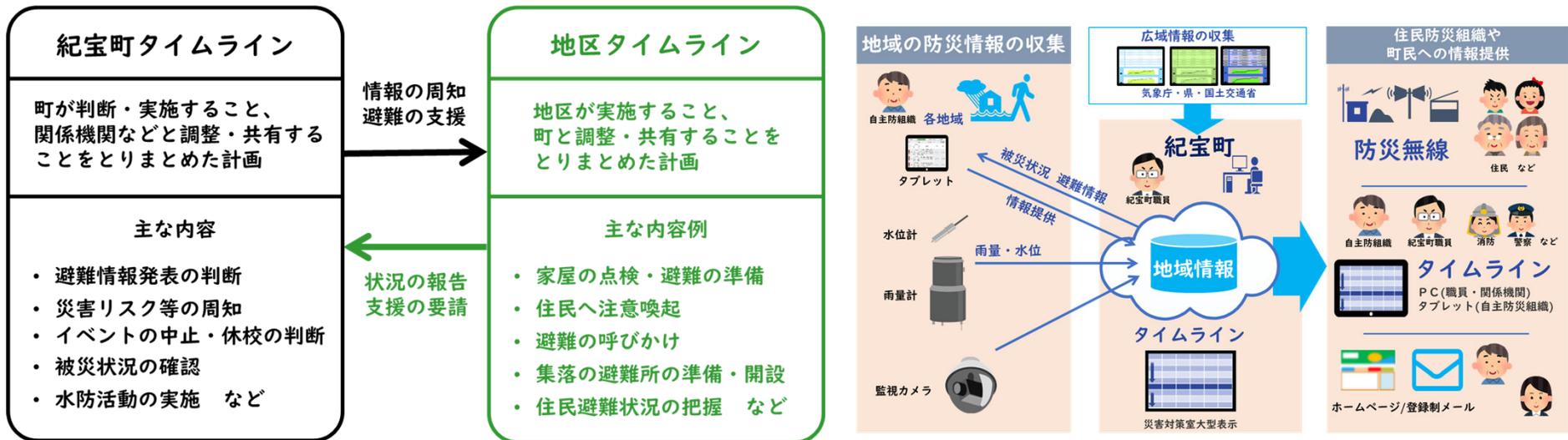


紀宝町井田区 井田小学校（地下地区） 風水害地区タイムライン

ステージ	住民	自治会	自主防災組織	民生委員	消防団	井田小学校	設備	
1	<p>防災情報の収集</p> <p>自宅の自然災害の実態</p> <p>備蓄品（食料・水・トイレなど）の確認</p> <p>近所・事務所などの個人財産を守る準備（燃料貯蓄含む）</p> <p>高齢者のひとり暮らしと高齢者等への注意喚起</p>	<p>防災情報の収集</p> <p>警戒区域内部住者の把握及び情報収集</p> <p>警戒区域内部住者への注意喚起</p> <p>民生委員との情報交換（警戒区域内部住者、避難行動要支援者、ひとり暮らし高齢者等について自主防災組織との情報交換）</p> <p>通信手段の動作確認（無線機・タブレットなど）</p> <p>防災意識の醸成</p> <p>避難所開設の準備（井田小学校への連絡含む）</p>	<p>防災情報の収集</p> <p>避難行動要支援者、ひとり暮らし高齢者等の把握及び情報収集</p> <p>警戒区域内部住者への注意喚起</p> <p>民生委員との情報交換（警戒区域内部住者、避難行動要支援者、ひとり暮らし高齢者等について自主防災組織との情報交換）</p> <p>通信手段の動作確認（無線機・タブレットなど）</p> <p>避難所開設の準備（井田小学校への連絡含む）</p>	<p>防災情報の収集</p> <p>避難行動要支援者、ひとり暮らし高齢者等の把握及び情報収集</p> <p>警戒区域内部住者への注意喚起</p> <p>民生委員との情報交換（警戒区域内部住者、避難行動要支援者、ひとり暮らし高齢者等について自主防災組織との情報交換）</p> <p>通信手段の動作確認（無線機・タブレットなど）</p> <p>避難所開設の準備（井田小学校への連絡含む）</p>	<p>防災情報の収集</p> <p>警戒区域内部住者の把握及び情報収集</p> <p>警戒区域内部住者への注意喚起</p> <p>民生委員との情報交換（警戒区域内部住者、避難行動要支援者、ひとり暮らし高齢者等について自主防災組織との情報交換）</p> <p>通信手段の動作確認（無線機・タブレットなど）</p> <p>避難所開設の準備（井田小学校への連絡含む）</p>			
2	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所への避難</p> <p>避難所での活動</p> <p>避難所での生活</p> <p>避難所での生活</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所への避難</p> <p>避難所での活動</p> <p>避難所での生活</p> <p>避難所での生活</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所への避難</p> <p>避難所での活動</p> <p>避難所での生活</p> <p>避難所での生活</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所への避難</p> <p>避難所での活動</p> <p>避難所での生活</p> <p>避難所での生活</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所への避難</p> <p>避難所での活動</p> <p>避難所での生活</p> <p>避難所での生活</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所への避難</p> <p>避難所での活動</p> <p>避難所での生活</p> <p>避難所での生活</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所への避難</p> <p>避難所での活動</p> <p>避難所での生活</p> <p>避難所での生活</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所への避難</p> <p>避難所での活動</p> <p>避難所での生活</p> <p>避難所での生活</p>
3	<p>大規模な被害や被害の発生</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>大規模な被害や被害の発生</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>大規模な被害や被害の発生</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>大規模な被害や被害の発生</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>大規模な被害や被害の発生</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>大規模な被害や被害の発生</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>大規模な被害や被害の発生</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>大規模な被害や被害の発生</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>
4	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>
5	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>	<p>避難情報の収集</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p> <p>避難所の状況確認</p>

避難体制等の強化 地区タイムラインの活用・策定

紀宝町タイムラインと地区タイムラインとの連携



地区タイムライン運用による効果 ～自治会・自主防災組織の声～

- 地域地域の集会等でタイムラインの話題が出るようになり、地域の防災意識が浸透してきた。
- 早めに避難を行うことで、食料や下着類を持参して避難するなど、自助の意識も見えてきた。
- 早めに要支援者を福祉施設に送ったり、明るいうちに高齢者を避難させることができた。
- 夜に雨脚が強かったが、支援者の安全も確保できたので、早めの行動の大事さを感じた。
- ピーク時には、消防団も安全な場所に避難できるのでありがたい。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

避難体制等の強化
防災教育・啓発活動等の推進

- 自治体職員に対し気象防災ワークショップの実施、小中学校や自治会、民生委員等に出前講座や研修会を行い、防災対策に取り組むための知識向上を図っている。

■気象防災ワークショップの実施

- 日 時:令和7年5月28日(水)
- 場 所:三重大学内みえ防災・減災センター
- 参加者:三重県内の自治体職員



班ごとに分かれ防災対応を検討中



検討結果の発表、共有

■学校での出前講座



R7.5.17 中川小学校

■民生委員、自治会等への研修会や出前講座

R7.6.12 津市安濃地区民生委員
児童委員協議会での研修会R7.9.8 一身田中区サロンでの
出前講座

R7.9.2 柘植中学校

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

避難体制等の強化 防災気象情報の普及啓発活動

- 令和7年出水期前に奈良県内の市町村防災担当者を対象に気象防災ワークショップを実施しました。
- 香芝市の校長等を対象に学校危機管理を題材とした教職員研修を開催しました。
- 大学機関と連携し、中高生を対象とした参加型イベントを開催予定です。

■気象防災ワークショップの開催

避難情報の発令判断をするための適切な気象情報の利用を解説

▼ワークショップの様子



▼事前学習の資料

⑩ 雨雲の動き (高解像度降水ナウキャスト)
 降水の強さの分布を **1時間先まで5分単位**で予想。
 降水の**非常に激しい場所**は、**赤色や紫色**で表示。
 降水短時間予報より細かい予報を見ることができ、

**キキクルと合わせて
避難情報の判断材料
に利用する。**

■実況解析は赤枠円で表示
 ■予測は赤点線枠円で表示

奈良の動き 2023/06/02 09:00 実況
 観測地点: 奈良(観測地点ID: 10000000000000000000)

線状降水帯を射撃した場合は、枠円で囲む。30分先までの予測も用いて解析。

© Japan Meteorological Agency 2023

気象庁 Japan Meteorological Agency

- 日 時: 令和7年5月27日(火) 13:30~16:30
- 参加者: 奈良県防災担当職員、県内8市町防災担当職員(計18名)
- 場 所: 奈良県庁災害対策スタッフ室

- ・令和5年6月2日梅雨前線による大雨の事例を使用し、土砂災害・洪水災害それぞれの災害対応演習を実施
- ・令和7年5月15日に事前学習をWEB開催し、資料は全市町村に提供
- ・防災の知見を兼ね備えた気象の専門家である「気象防災アドバイザー」と連携し、解説を実施
- ・令和7年2月には、五條市を会場として同内容のプログラムを開催(参加者: 県・市町村(他府県含む)防災担当者計21名)

■教職員向けの学校安全教育 (香芝市)

児童・生徒の安全を守るための気象情報の適切な利用を解説

▼研修(検討時)の様子



- 日 時: 令和7年6月17日(火) 14:00~16:00
- 参加者: 市立小中学校14校の校長等学校管理職員・市職員(約40名)
- 場 所: 香芝市中央公民館

・登校時間に警報を発表すると予想された場合の対応を検討

■大学機関と連携した中高生対象の参加型イベント

気象庁ウェブサイトの見方と情報について解説

国土交通省 気象庁

HOME 防災情報 各種データ・資料 気象情報 知識・解説 各種申請・ご案内

Workshop
気象庁ウェブサイトから
情報を取ってみよう

気象庁のウェブサイトには、過去の観測記録、これからの予測、さらに緊急時に使う防災情報が公開されています。あなたが必要な情報が公開されているのか、一緒に探してみましょう。

- 日 程: 令和7年11月15日(土)
- 場 所: 奈良地方気象台

- ・実際に操作してもらいながら、気象庁ウェブサイトの見方を解説
- ・気象台内・観測測器の見学や気象台の業務紹介を実施予定

◀ チラシの一部

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

避難体制等の強化
防災教育・啓発活動等の推進

- 自治体職員に対し「市町村初任者講習会」および「防災担当初任者講習会」の実施、学校や要配慮者等関連事業者、消防や警察関係等には出前講座を行い、防災教育・防災対策に取り組むための知識向上を図っている。

■市町村初任者講習会及び防災担当初任者講習会の実施

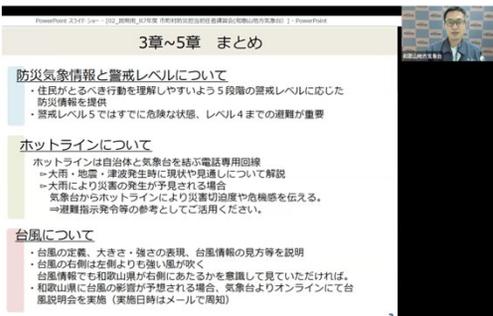
- 日時: 令和7年5月16日(金)
- 形式: Web会議形式(Zoom)
- 参加者: 県内の自治体職員

市町村初任者講習会: 40分

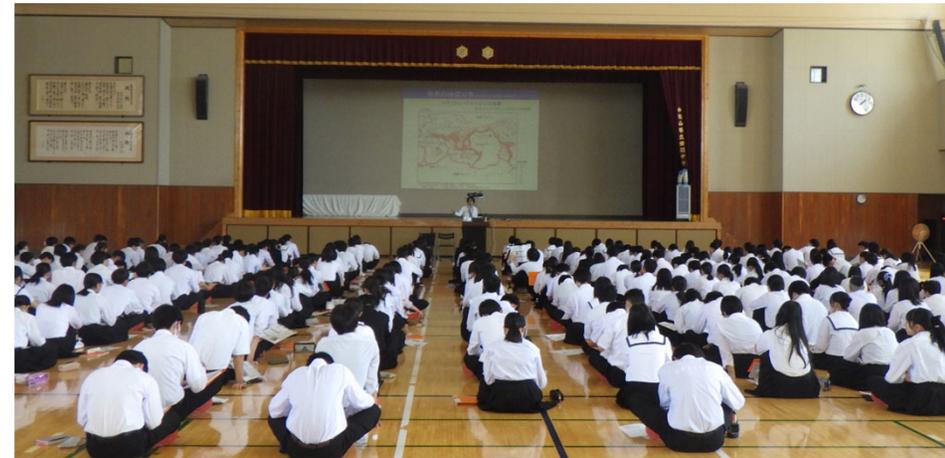
1. 「気象の見通し資料」について
2. 気象庁ホームページの見方(気象)
3. 気象庁ホームページの見方(地震)

市町村防災担当初任者講習会: 80分

1. 大雨などの地域特性
2. 気象警報・注意報について
3. 防災気象情報と警戒レベルについて
4. 「ホットライン」について
5. 台風について
6. 地震について



■学校での出前講座



R7.6 田辺高等学校

■キキクルを活用した防災対応訓練の実施

- 日程: 令和7年5月19日(月)
- 参加者: 県北部の4振興局と12市町

令和5年6月の線状降水帯発生事例を用い、気象台がコントローラー役としてキキクル等の情報をタイムラインに沿って提示し、自治体はその情報を受けて、推定被害の収集や避難判断等の流れを確認する防災対応訓練を実施した。



R7.7 和歌山大学



R7.7 和歌山市立小学校

避難体制等の強化 熊野川中学校における防災授業

- 地域の防災力向上のための取り組みの一環として、新宮市立熊野川中学校で防災授業を開催しました。
- 本年度は、近年の全国的な水害や熊野川流域の水害から水害の危険性を学んだ後、浸水歩行体験を通じて水害の危険性を実際に体験していただき、事前避難の重要性をお伝えしました。
- また、新宮市より避難物資の流通について、和歌山県より和歌山県防災ナビの使い方について、ご紹介いただきました。

令和7年度 防災授業

■ 日 時：令和7年12月8日(月) 5限、6限

■ 参加者：紀南河川国道事務所4名、新宮市2名、和歌山県2名、生徒16名、教員10名、地域住民9名

水害について学ぶ様子



浸水歩行体験



避難物資流通方法の紹介(新宮市)



防災ナビの紹介(和歌山県)



生徒の感想

■熊野川流域の水害を学んで

- ・紀伊半島豪雨の時に体育館まで浸水していたのが怖いと感じた。
- ・紀伊半島豪雨の話は、「丸太やゴミだらけで歩けない」や、「風呂も使えない」と家族から聞いた。
- ・避難放送を聞いたらすぐに避難するほうがいいことを学んだ。

■浸水歩行体験をして

- ・足を入れた瞬間に流される感覚があった。
- ・濁水で底が見えない恐怖があり、外に出るのが怖いと感じた。
- ・障害物を避けながら歩くのが難しかった。
- ・浸水時は歩くのに時間もかかるし、下を見ていて前が見えていないので危険性がとても高いと感じた。

■新宮市と和歌山県の話提供を聞いて

- ・今は家に備蓄をしていないため、家に帰ってから防災バッグなど準備したい。
- ・自分では何かを改めて考えるきっかけになった。
- ・和歌山県防災ナビを入れて、家が安全かどうかを確認したい。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

「局地的豪雨探知システム」の利活用推進とゲリラ豪雨対策 広域アクションプランに基づく対策の推進

気候変動適応地域づくり推進事業

- 気候温暖化に伴う局地的豪雨の増加による影響を踏まえ、その(人的・物的)被害を軽減するために策定した広域アクションプランに基づく適応策の推進を図る。関係者が参加するFU*分科会を開催・運営する。
- 滋賀県、京都府及び関係市町村、大阪府、和歌山県、京都市、大阪市、地域適応センター(兵庫県他)、等(環境部局に加え、一部の防災・危機管理系部局も参加。継続して参加募集中。)

(※FU:フォローアップ)

<推進体制>



事業メニューの実施状況

ゲリラ豪雨対策FU分科会の設置

テーマ：局地的大雨による市街地 水災リスク増大への適応

気候変動の影響により、局地的豪雨の頻度、強度が増してきており、将来的にはさらに激甚化することが予想されています。また、局地的豪雨による災害の頻度・程度が増しています。

近畿地域では、XRAINによる降雨の立体観測が高頻度で行われている優位性があります。

(令和7年度の事業活動内容)

- ・分科会：2月6日(金) 開催予定
- ・中小規模施設のゲリラ豪雨対策事例集・ガイドライン策定：神戸須磨シーワールドにおける対策のヒアリング(12月4日)
- ・中学校における実証事業のビデオ教材：学校に配布(9月上旬)、意見を収集対象：南宇治中学校、東宇治中学校
- ・人と防災未来センターとの連携事業(ゲリラ豪雨×夏休み防災未来学校2025WS「ゲリラ豪雨マスターになろう!」)：7月19日、20日、計4回実施

事業メニューの効果

広域アクションプラン (R4年度策定) に含まれる適応アクション

広域連携での適切性、実行可能性・費用対効果の検証を踏まえ、広域アクションプランを策定

a.施設のゲリラ豪雨対策の実施状況の整理と対策推進

主なターゲット：中小規模施設の施設管理者、公園管理者等(野外施設の管理者も含む)
アクションプラン：既存施設等のゲリラ豪雨対策状況のとりまとめと情報共有。中小規模施設等におけるゲリラ豪雨対策の推進。

b.ゲリラ豪雨関連情報の有効活用検討

主なターゲット：地方公共団体(環境系部局、危機管理部局、防災系部局、道路系部)関係者、指定施設管理者、工事業者、教職員・生徒、一般住民
アクションプラン：豪雨関連情報のとりまとめ結果や利用方法に関するマニュアル作成と有効活用促進

c.ゲリラ豪雨対策に関する啓発・教育

主なターゲット：地方公共団体(環境系部局、危機管理部局)、地域気候変動適応センター、各府県地球温暖化防止活動推進センター、教職員・生徒、一般市民
アクションプラン：学校教育現場における啓発授業の実施や、啓発パンフレットの作成・配布

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

浸水被害対策 排水ポンプ車の配備・運用

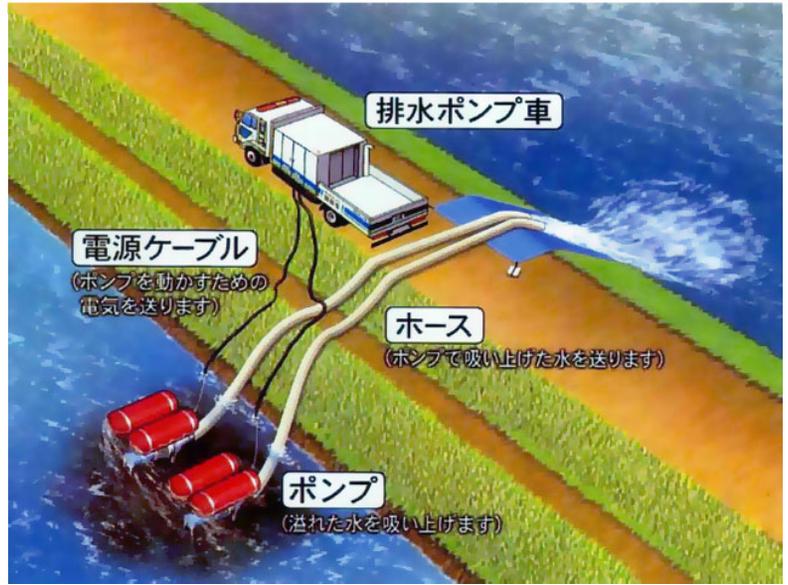
25mプールの水を
約10分で排水します！



三重県 県土整備部
公式マスコット「ちどりん」

配備台数：1台
車両規格：8t車
排水能力：30m³/min
配備場所：三重県尾鷲庁舎

東紀州地域を中心とした
県内の浸水被害に対応！



(排水ポンプ車による排水イメージ: 出展 国土交通省)

県内の配備状況

国交省直轄事務所 (桑名・津・伊賀・紀宝)	12台
市町 (伊賀市)	1台
県 (三重県尾鷲庁舎)	1台

令和7年12月には
排水ポンプ車を
県伊勢庁舎に追加配備予定！

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

WEB会議による危機感の共有

- 令和7年度台風15号において、熊野川流域でも影響が見込まれたため、熊野川流域タイムラインのWEB会議による危機感共有、及び紀宝町タイムライン連携会議を開催しました。
- 開催にあたり、紀南河川国道事務所から、予測雨量に基づいた水位見通し等の情報提供を行い、関係機関の情報共有等を図るとともに、事前防災行動等の確認を行いました。今後も台風等の大雨等が予想される際には、タイムラインを通じて、関係市町との連携を深めていきます。

■熊野川流域タイムライン WEB会議による危機感共有
■紀宝町タイムライン連携会議


被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

報道・中継訓練

- 和歌山県域メディア連携協議会の取組として、報道・中継訓練を計2回実施しました。1回目はNHK和歌山放送局・和歌山地方気象台とテレビ放送を想定して実施、2回目は株式会社和歌山放送と和歌山地方気象台とラジオ放送を想定して実施しました。
- 訓練を通して円滑な情報伝達を行えるように、メディア機関の助言を受け、よりの確かつ切迫感のある表現を検討するとともに、出水時の緊急的な放送に備えて、メディア機関と行政機関間の連携強化を図りました。

■報道・中継訓練（テレビ）

- 日 時: 令和7年12月10日(水) 14:00~15:00
- 方 法: WEB会議
- 参加者: NHK和歌山放送局、和歌山地方気象台、紀南河川国道事務所



意見交換状況(Teams)



訓練実施状況(紀南河川国道事務所)

■意見交換内容(抜粋)

- 「川の防災情報」の見方や視聴者が具体的にどのように行動すればいいかをわかりやすく教えていただいた。また、災害の見通しの難しさの中で、文章を工夫していただいたのが非常に分かった。迷った際は視聴者が知りたいことを考えて判断をしていただければと思う。(NHK和歌山放送局)
- 緊急の説明を想定して今回は訓練を実施したが、ホームページでの説明が主体となると考えている。そのため、今後は気象台のホームページを使って視聴者の皆さんに少しでも見てもらえるような形をやっていければと思う。(和歌山地方気象台)

■報道・中継訓練（ラジオ）

- 日 時: 令和8年1月13日(火) 14:00~15:00
- 方 法: WEB会議、電話
- 参加者: 株式会社和歌山放送、和歌山地方気象台、紀南河川国道事務所



意見交換状況(Teams)



訓練実施状況(紀南河川国道事務所)

■意見交換内容(抜粋)

- 「雨量●mm」とはどれくらいの量かなど、リスナーにどのようにイメージを持ってもらうかを意識した。ホームページの活用についても、アナウンサーとのやり取りがあると、リスナーの利用にもつながると感じた。(和歌山地方気象台)
- ラジオは音声情報のみのため、情報の取捨選択を意識してお伝えした。電話で情報をお伝えしながら、WEB会議で画面を共有して放送できることも確認できた。(紀南河川国道事務所)
- 電話とWEB会議(主回線・副回線)で実施することができてよかった。ラジオは音声のみのメディアのため、命を守るための行動の呼びかけなど、重要な部分を繰り返し念押しでお伝えしている。(和歌山放送)

水源林造成事業による森林の整備・保全

- 水源林造成事業は、奥地水源地域の民有保安林のうち、所有者の自助努力等によっては適正な整備が見込めない箇所において、針広混交林等の森林を整備することにより、森林の有する公益的機能の高度発揮を図る事業。
- 水源林造成事業地において除間伐等の森林整備を計画的に実施することで、樹木の成長や下層植生の繁茂を促し、森林土壌等の保水力の強化や土砂流出量の抑制を図り、流域治水を強化促進する。
- 熊野川流域における水源林造成事業地は、459箇所（森林面積 約 17,000 ha）であり、流域治水に資する除間伐等の森林整備を計画的に実施していく。（令和7年度においては、約 650 haの森林整備を実施。）

